



2025年3月発信

Press Release

報道関係者各位

軽井沢現代美術館2025年の展示企画をお知らせいたします。詳しくは広報担当までお問い合わせくださいませ。

1F常設展示室 4月24日(木)～9月23日(火)

海を渡った画家たち —フィナーレ！—

【概要】

軽井沢現代美術館は今年最後期を迎えました。

昨年は当館の創設者谷川憲正(東京・海画廊創業者)が30年に亘り収集したコレクションの全容を、それぞれの制作の場・時期によって三つのグループに分けてご覧いただきました。

フィナーレとなる今期を飾るにふさわしい展示は何であろうかと模索しましたが、44名に及ぶコレクション作家の中から中核となる10人に焦点をあてて企画することいたしました。

足で描く白髮一雄

電気服からイメージされる丸と線のつながりを表現する 田中敦子

アンフォルメルの寵児 堂本尚郎

エコール・ド・パリのスーパースターと評される疾走する作家 菅井汲

孤高の前衛芸術家 草間彌生

画面に図形、文字、矢印を用いて意味の概念を問いかける 荒川修作

「スーパーフラット」を世界に認知させた 村上隆

日本の現代美術第二世代を代表するひとり 奈良美智

ガラス・シリコンオイルなどを用い彫刻の概念を押し広げた 名和晃平

鮮やかな色彩を手で描くロッカクアヤコ

彼らはそれこそ1950年代から現在に至るまで「日本の現代美術」を代表するアーティストですが、特筆すべきは、扱うモチーフ、技法、画材等々、全て異なる個性を持っている点でしょう。

と同時に、各々の作品から発せられる驚異的とも言えるエネルギーは等しく強烈に観る者的心を捉えて離しません。

コレクターである創設者は彼らの情熱をこよなく愛し、収集し続けました。

とりわけ草間彌生の鬼気迫るともいえる作品に対峙する姿勢は創設者を魅了し、彼は収集と並行して、画廊を訪れる顧客への啓蒙に努めました。

10人各々の煌くパッション。

果たして鑑賞者の皆様の目にはどう映るのでしょうか。

「なんだかむずかしい」と言われがちな現代アートですが、読み解くことに特化せず、ここ軽井沢現代美術館で心を惹かれた作品・アーティストとの出会いがありましたらそれが美術館冥利に尽きるといえましょう。

当館のフィナーレにふさわしい作品群との出会いを存分にお楽しみください。

●出展作家

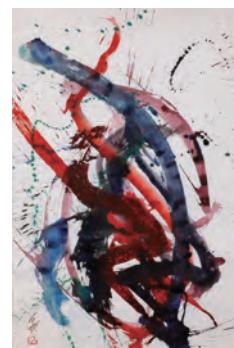
荒川修作、草間彌生、白髮一雄、菅井汲、田中敦子、堂本尚郎、奈良美智、名和晃平、村上隆、ロッカクアヤコ(五十音順)他



「Infinity Nets」
1999年 キャンバスにアクリル 65.2×53cm
草間彌生
©YAYOI KUSAMA



「女の子」(作品一部)
2007年 キャンバスにアクリル 142×358cm
ロッカクアヤコ



「作品」
1970年代後半 紙に水彩 95.2×63.6cm
白髮一雄



Press Release

2025年3月発信

2F企画展示室 4月24日(木)~9月23日(火)

海を渡った画家たち ～フィナーレ！～

【概要】

2階企画室では、1階展示室同様「海を渡った画家たち～フィナーレ！～」の展示を行っております。20代でフランス・パリに渡り、1950年代の美術運動「アンフォルメル」に身を投じた堂本尚郎、その後アンフォルメルとは距離をおき、画風を変化させながらも高い評価を得ています。菅井汲は堂本とほぼ同時期に渡仏。当初はアンフォルメルにふれながら、1962年頃からは独自の幾何学的でシンプルな形と色彩の作風を確立させました。無類のスピード狂として有名。

また、2階の一角では軽井沢現代美術館のフィナーレを記念してこれまでの美術館の軌跡を辿ったショートムービー「軽井沢現代美術館2008-2025」を上映いたします。

昨年、美術館の閉館をお知らせした折にはたくさんのお客様よりありがたいお言葉を頂戴しました。意あって力足らずではありました。アートとお客様をつなぐ役割の末端を果たせたことを大変嬉しく存じます。当初は「美術館はあくまで展示されている作品やアーティストが主役。あえて美術館本体の軌跡など残す必要があるのか…」と制作するか否かを思案していました。しかし、美術館という形あるものがなくなってしまう今、ここでお客様と過ごしたかけがえのない17年間を今一度振り返ってみたくなりました。そして昔の記録や写真などを捜しつつ懐かしさや感傷に耽っているうちに今回の映像制作へと辿り着きました。

ご覧いただいたお客様にとっても懐かしいシーンが登場したり、何か感じていただけるものがありましたら嬉しく存じます。また今期初めてご来館くださるお客様には過去の展示やイベント風景などを楽しんでご鑑賞いただければ幸いです。

末尾になりますが、アートは関心を寄せ鑑賞してくださる皆様の存在なくして成立し得ないコンテンツです。今日まで軽井沢現代美術館をご来館くださった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

私共も皆様との暖かい交流を忘れることなく次のステージへと歩んでまいります。

●出展作家

菅井汲、堂本尚郎 (五十音順)



「1959-12」
1959年 キャンバスに油彩 145.5×112.1cm
堂本尚郎



「朝のオートルート (Martin Du L' Autoroute)」
1963年 キャンバスに油彩 130.5×97cm
菅井汲

掲載ご希望の方は広報へお問い合わせください。

海画廊(軽井沢現代美術館 東京事務所)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3-5 富山房ビルB1階
TEL/FAX 03-3233-3359 E-MAIL info@umigallery.net (広報担当:稻村)